

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

新興国市場の成長と収益の確保とは別問題 野口 悠紀雄 (早稲田大学大学院教授)

1. 日本企業が外国人採用を増加させている直接的な理由は、アジア新興国における事業を拡大したいというものだ。主力マーケットを、国内と先進国から新興国へと転換しようとしているのだ。それはアジア新興国市場が急拡大しているからだ。こうしたことを背景として、「これからは新興国市場だ」との意見が多い。
2. しかし私は、新興国に最終消費財の市場を求めようとする方向には懐疑的だ。その方向のビジネスモデルが成功するとは思えない。「今後成長する市場が新興国である」のは間違いないが、それは「日本企業がそこに参入するのがよい」ことを意味しない。「新興国市場は拡大する」ことと、「日本企業がそこで高収益を上げられること」とは、まったく別問題なのである。
3. アジア消費者市場への参入が日本企業の救世主にならないと考える第一の理由は、他の先進国や新興国のメーカーがすでに参入しており、激しい競争が展開されているからだ、されに大きな理由は、新興国で求められるのは、高品質の製品というよりは低価格の製品であることだ。ところが日本の製造業は、低価格製品の生産において比較優位を持っていない。「国内市場や先進国市場がダメになったから新興国」という発想には、比較優位の視点が欠落している。新興国とは低所得国であることを忘れてはならない。
(参考:「週刊東洋経済」2011年1月29日号)

経営者のための危機管理

自分を律する家憲 (渋沢家)

1. 明治期の後半、商家の間で「家憲」や「家法」の制定がブームになった。当時、江戸時代からの名家が没落し、新興成金が台頭しては乱脈経営や投機でつぶされていた。時代が激変しても長続きする家をどうつくるか。この問題意識が「家訓から家憲へ」という運動を生む。
2. とりわけ 1891 年に制定された渋沢家の家憲・家法は、他家にも大きな影響を与えた。渋沢家の家憲のキーワードは 2 つある。「自律」と「ガバナンス (統治)」だ。オールマイティな権力を持つと「裸の王様」になりやすい。そのため、自分で自分を律することが欠かせないが、家憲はその自律を促す仕組みになる。例えば第一則第 6 条は、「富貴におごるべからず、貧賤をうれうべからず」という慢心の戒めだ。

(参考:「日経トップリーダー」: 2011 年 2 月号)

経営者のための理念・哲学

自分自身を正す

伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 中国古典の「大学」には、「其の国を治めんと欲する者は、先ず其の家を斉う」とあります。国を治めようと思うなら、先ず己の家をしっかりと治めなければなりません。しかし、しっかりとした心掛けを持って臨まなければ、自分の家庭一つ円満に治めることはできません。そして、自分の家族をまともに治められない者に、国家や会社などの組織を立派に治めることなどできないのです。
2. 自分の家を斉えるためには、自分の身を修めることだ。自分の身を修めるためには、内なる心を正しくすることだ。内なる心を正しくするためには、感情を正常にすることだ。「大学」では、このように段階的にかみ砕いて説かれています。これらは一つのもので、つまり、自分自身が正しくなれば、即国も正しくなり、天下も平らかになっていくのです。
(参考:「致知」2011 年 4 月号)

古典に学ぶ

仕事に打ち込む

「大禹は聖人なれどもすなわち寸陰を惜しめり。衆人はまさに分陰を惜しむべし」

(訳) 訳しますと、「禹は聖人であったけれど、寸陰を惜しんで仕事に精励した。ましてわれわれ凡人は、分陰を惜しまなければならぬ」というのです。ちなみに「寸陰」とは短い時間のこと、「分陰」とは、「寸陰」の十分の一ともいえるようなごくわずかな時間のことを指しています。

(参考: 守屋 洋「リーダーのための中国古典」: 日経ビジネス人文庫)